

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知南：探究型学習について

【概要・目的】

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、学習の振り返りを中心に協議。

平成28年度の当初計画（P）

【本年度の到達目標】

- ① 探究型学習推進チーム、中学校・高等学校教科会（国語、地歴公民・社会、数学、理科）が連携して、協調学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の研究をさらに推進し、生徒が話し合いを通して自ら思考を広げ深めていき、表現できる効果的な指導法を研究する。
- ② 「探究型学習（協調学習）事例集」を活用するとともに、第2集を作成する。

【本年度の取組内容】

- ① 数学、理科、英語の授業実践を重ねる。（国語、社会は昨年度からの継続実施）
- ② 評価項目やワークシート作成の研究
- ③ 思考の深まりを言語化したものを適切に評価できる評価方法の検討
- ④ 実践事例集の作成（普及していく観点をふまえた事例集の作成）

【第1回グローバル教育推進委員会でのご意見】

- ・振り返りの際に、思考を言語化させることは難しくそれが表現されていないことがある。時間がかかることではあるが、言語活動の工夫が必要である。（英語教育プログラムでも同様のことが言えるのではないか）
- ・教科間のつながりを持たせた取組を実施してはどうか。（他教科の調べ学習の中で英語の資料を使用するなど、学び方ではなく、学際的に教科間の窓を一緒にしてはどうか）

平成28年度の取組状況（D）

① 協調学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業研究の一層の推進

- ・「高知南中・高マネジメント」に基づきマネジメントプランを作成、全教科が知識構成型ジグソー法などアクティブ・ラーニングの技法を用いた探究型学習を実践している。
- ・国語、社会における協調学習の研究を継続するとともに、本年度は、数学、理科、英語を重点教科として取り組んでおり、生徒の評価も高い。

〈協調学習による授業に対する生徒アンケート結果：中3理科〉 肯定群(%)

① 授業は楽しかったか。	88.0
② 友達と一緒に勉強したら、自分の考えが良くなったと感じたか。	92.0
③ 自分は最後まで粘り強く考えることができたと思うか。	84.0

〈協調学習による授業に対する生徒アンケート結果：高1理科（化学基礎）〉

① 私は、自ら考えて自ら活動している自覚がある。	92.1
② 私は、自分の言葉で説明し、班活動に貢献できた。	92.1
③ 私は、この授業を集中して受けることができた。	97.4
④ アクティブ・ラーニング（ジグソー法等）を取り入れる意義を理解している。	92.1

〈自由記述〉
 ・ジグソー法のおかげで「できた」という達成感が得られるようになりました。また、機会があれば、ジグソー法を取り入れてほしいです。

- ・平成28年度全国学力・学習状況調査では、「授業で話し合う活動」を行っていたと答えた生徒が92.1%で、全国や高知県の平均を上回っている。また、課題解決や言語活動を取り入れた授業の実施率も全国と比較して高いが、高知南中に関しては、昨年度に比べて肯定群が5.9ポイント下がっている。

〈全国学力・学習状況調査結果〉 肯定群(%)

質問項目		南中	県	全国
授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思うか。	H28	92.1	88.2	77.8
	H27	93.0	86.5	78.2
	H26	84.6	84.1	75.3
授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うか。	H28	78.3	79.4	69.3
	H27	84.2	73.8	65.7

- ・ICTの活用促進が、生徒の主体的、協働的な学びや視覚的な支援に結び付いている。
 4月～9月 タブレット利用件数 221件

② 思考の深まりを言語化させるための言語活動の工夫

- ・教科会や探究型学習推進チーム会において、学習指導案やワークシート、評価項目等の検討をしたり、校内研修会・研究授業を実施したりしながら、授業改善に努めている。特に、思考の深まりにつながる発問や評価方法等の研究を継続して行っている。

課題と今後の取組（C、A）

課 題

① アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善への取組

- ・年間を通じて校内での公開授業や研修等を実施し、アクティブ・ラーニングを意識した授業改善に努めようとする教員が中学校、高校ともに増加しているが、教科会等の組織による日常的な継続した授業改善への取組という点が十分でない。

② 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」につなげるための実践研究

- ・学習目標、評価規準、振り返り等が生徒の実態を考慮した設定になっていない場合があり、改善に向けて継続した取組が必要である。
- ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくりを行う土壌はできつつあるが、思考の深まりにつながる発問や評価方法、思考を言語化させる言語活動の工夫については、各教科が継続して取り組むべき課題である。
- ・高知南中の生徒調査によると、授業で話し合う活動の実施率は高いが、課題解決に向けた探究的な活動の実施率が昨年度と比較して下がっている。
- ・主体的・協働的な深い学びにつながるような、効果的なICT活用のポイントを明確にする必要がある。

今後の取組

① 組織による日常的な継続した授業改善への取組

- ・学習目標、評価規準、振り返り等が生徒の実態を考慮した設定にするために、週1回の教科会、月1回程度の探究型学習推進チーム会を計画的に実施し、教育センター指導主事が指導助言を行いながら、授業改善に向けて継続的に取り組む。

② 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の実現に向けた取組の普及

- ・思考の深まりにつながる発問や評価方法、思考を言語化させる言語活動の工夫、ICTの効果的な活用についての研究を教科会、チーム会等で継続して取り組む。
- ・特に、授業のねらいを明確にし、授業での話し合いを活動だけに終わらせず、目標を達成するための課題解決に向けた探究的な活動にするための授業改善に取り組む。
- ・「高知南中学校・高等学校グローバル教育研究報告会」に向けて、学習指導案検討を教科会だけではなく、探究型学習チーム会等で教科の枠を越えて行い、また、高知県教育センターや東京大学CoREF等の指導助言等も受けながら、「生徒が話し合いを通して自ら思考を広げ深めていき、表現できる」授業づくりに全体で取り組む。

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知南：探究型学習について

平成28年度の取組状況 (D)

- ・中・高ともに全教科が取組の重点に、目標の生徒への提示、授業の振り返り、アクティブ・ラーニングを入れて授業改善に取り組んでいる。授業で目標を提示する割合は全国・県平均より高く、振り返り活動の実施率も全国平均より高い。

〈全国学力・学習状況調査結果〉 肯定群 (%)

質問項目	南中	県	全国
授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたか。	96.5	91.8	84.9
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか。	73.9	75.6	63.1

③ 教科間のつながりをもたせた横断的な取組

- ・「授業力向上・授業改善自己プラン」に基づき、特に6、11月を強化月間として公開授業や授業参観、研究協議を行うなど、教科や校種を超えた交流を行い、11月末までには全員が1回以上公開授業を行っている。
- ・探究型学習推進チーム会や校内研修会では、教科を超えて様々な視点からの情報交換や研究協議を行っており、他教科への広がりにつながっている。教員による満足度も高い。

④ 校内研修会の実施、県外研修会への派遣

- ・教員の意識改革や授業づくりのために、外部講師を招いて校内研修会を実施している。

〈7/14-15 「探究型学習研究授業及び研修会」教員アンケート結果〉

	とても参考になった	どちらかと言えば参考になった	肯定群 (%)
[公開授業] 中3理科	100%	0	100%
[公開授業] 高2数学Ⅱ	76.9%	15.4%	92.3%
[分科会]	80.0%	20.0%	100%

〈自由記述〉

- ・生徒は、他者の考えに対して、付け足したり、批判をしたりして、思考の深まりが見られた。2時間続きで授業をするには、年間計画を定めることが大切である。

- ・「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)」主催の研修会等へ高知南中・高等学校教員を派遣するとともに、報告会等校内での啓発にも努めている。

⑤ 「探究型学習（協調学習）事例集」の活用と第2集の作成

- ・校内研修会等で紹介、説明し、授業改善の参考資料とするように働きかけている。
- ・「校内共有フォルダ」に事例集や学習指導案集等を保管し、教員が手軽に利用できるようにしている。また、新しく作成した学習指導案を保管し、共有できるようにしている。
- ・第2集の作成に向けて、資料の収集に取り組んでいる。

課題と今後の取組 (C、A)

- ・「グローバル教育研究報告会」に向けて取り組んだ成果と課題を3学期に総括し、研修会等を実施することで校内に波及させる。

③ 「探究型学習（協調学習）事例集」第2集の作成と普及

- ・「探究型学習（協調学習）事例集」第2集の作成に向けて、資料整理・まとめなどを行い、探究的な授業づくりの参考となる事例集を作成し、研修会等で普及させる。

【平成28年度 到達目標】

学習の振り返りをし、学習者の習得状況を教員及び学習者にフィードバックする。



自分で「課題を発見する力」、「課題を解決する力」、「考える力」を身に付けている。